

ユニバーサル社会の実現を目指して



一人一人の権利が大切にされる社会にするには、年齢、性別、障害、文化、国籍などの違いに関わりなく、誰もが地域社会の一員として支え合うことです。一人一人が持てる力を発揮して元気に活動できる、安心して暮らせるユニバーサル社会の実現が望まれています。

子どもの第3の居場所～キッズキャンパス

関人権室
TEL 06・6992・1512

子どもを大切に取る取り組みとして、家庭、学校だけではなく、地域などでの子どもの居場所づくりが進められています。その一つとして、大阪国際大学キッズキャンパスを紹介します。キッズキャンパスは、守口市社会福祉協議会、よつば校区の福祉委員・民



生児童委員、よつば小学校、大学の地域協働センター！教員・学生で実行委員会を構成し、平成29年5月から毎月1回、土曜日に開催されています。よつば小学校の4年生、6年生に案内を配布し、大学のキャンパスにいつも40人ほどの子どもが参加しています。

午前中は、学生による学習の支援。昼食は福祉委員・民生児童委員など食育ボランティアの手作り昼食を食べます。食材も、京都府の南山城村での米作り体験により育てたお米を使い、メニューの内容によっては、子どもたちも調理に参加します。午後は、学生や地域ボランティアと一緒に遊びます。

学校、家庭以外にも、子どもたちがのびのび過ごせる居場所をつくることを目的としています。

取り組みでの社会福祉協議会の役割

守口市社会福祉協議会 鳥野事務局長

社会福祉協議会としては、事業運営ならびに大学との企画・立案を担っています。学生は学習、福祉委員・民生児童委員・地域ボランティアは食事作り、遊びはその日の内容によって、それぞれが担当します。

「地域に若い人がいない」とよく言われていますが、学生が望んでいる活動やボランティアの場を、うまく作れていなかったのではないのでしょうか。この取り組みには、多くの学生が参加していることから、学生や若い人も参加する地域活動の新しい可能性を見つけていくことができるものではないかと思えます。



民生児童委員としての気づき、地域の皆さんにとってのキッズキャンパス

民生児童委員 大井由喜子さん

子どもは皆、平等であるべきですし、同じ経験をしてもらいたいと思いますね。食育でもそうです。最初は「これは食べられない」など好き嫌いを言っていた子どもたちが、何でも食べられるようになり、ほとんど完食するようになりました。学生も、子どもとの関わり方、声のかけ方がどんどん変わり、成長しているように感じます。地域で、普段でも子どもたちから声をかけてくれることが多く、たくさんの子とも仲良くなれました。食育ボランティアも民生児童委員以外にも広がり、「自分のできることなら」と参加してくれる人も増えています。



学生ボランティアとして
大阪国際大学グローバルビジネス学部
3年生 山田 幸希さん

子どもたちから学ぶことが多いですね。子どもの発想力は大きく、大人が思いつかない遊び方や考え方をすることがあります。

大学生は、そもそもボランティア活動の場がどこにあるのかわからない人が多いです。今、周りの人をどんどん誘って仲間を広げています。活発に活動している人は結構多いと思いますよ。

大学の地域では、参加している子どもたちに「さんた(山田)」とニックネームで呼ばれることがあります。名前を覚えてくれると思うと、とてもやりがいを感じますね。

この事業は、地域に開かれた大学の取り組みの一つとして位置付けています。大人向けの公開講座にも取り組んでいます。大人向けの公開講座にも取り組んでいます。大人向けの公開講座にも取り組んでいます。

当校の学生も参加しており、教育の一つでもあります。教職員を目指す学生もいますので、いろいろな子どもに出会い、取り組みに参加することで社会を知る機会にもなります。

学生の役割については、午前中に行われている学習支援に活躍していますね。学生と、参加する子どもとの年齢も近いことから、学習内容の難しいところなども知っていて、子どもの目線で、気持ちを理解し、信頼関係を築いています。子どもたちは「ほんまの大

地域と共に歩む大学



大阪国際大学国際教養学部
教授 笠井 敏光さん